

「心豊かな青少年を育む県民のつどいin栃木市」開催

11月4日(土)午後1時30分から、栃木市岩舟文化会館コスモスホールで「心豊かな青少年を育む県民のつどいin栃木市」を開催しました。当日は県内各地から約300名の皆様にご来場いただきました。

第1部では開式行事の後、栃木県「第67回社会を明るくする運動」作文コンテスト中学生の部で最優秀賞を受賞した、鹿沼市立南押原中学校2年大貫陽花有(ひかる)さんの作文朗読と、第40回栃木県少年の主張発表県大会で最優秀賞を受賞した、鹿沼市立西中学校3年上吉原由佳さんの発表です。



大貫さんの作文は「支えてくれる人がいるから」という題です。学校に来たボランティアの保護司の方の話聞き、「社会を明るくする運動」について知りました。犯罪からの立ち直りを決意した人にとって、その決意は最も大切ですが、周囲の人の態度次第でその人を追い詰めてしまうこともあります。更正には、その人の気持ちに向き合って理解する人が必要です。大貫さん自身も、支え合う中で自分自身が存在することに気づき、「社会を明るくする」のために「支える」ことの大切さを力強く述べています。そのまっすぐな考え方は会場の皆様にまっすぐに伝わりました。

上吉原さんの発表は、「ありがとう、ごめんね」という題です。障がいのある姉との生活や社会での体験を通して、障がい者への差別や偏見という問題に気づくだけでなく、自分の中の差別と偏見をしっかりと見つめ、さらに自分の将来への夢へと発展させています。「ありがとう、ごめんね」ということは、そのような自分への反省と、家族への心温まる感謝の気持ちが込められています。深い思いのこもった発表は聞く人の心に大きな感動を与えました。



第2部では、栃木市立岩舟中学校の吹奏楽部の演奏です。36名と少ない部員ですが今年度の県吹奏楽コンクールで念願の金賞を受賞した演奏は、さすがにすばらしいものでした。全体の迫力ある音とソロの繊細な表現など、会場の皆さんもその演奏に聴き入っていました。後半はパフォーマンスを加えた演奏で、楽しくステージを閉じました。

第3部は、声優、歌手などとして活躍する佐久間レイさんの「心を柔らかくストレッチ」と題する講演です。講演は、まずエルガー

の「愛の挨拶」で始まりました。演奏は、ピアノ 佐田詠夢さん、バイオリン 岡田邦子さんです。おふたりの演奏は佐久間さんのお話を優しく包み込みました。講演は、「それゆけアンパンマン」のバタコさん、「魔女の宅急便」のジジ、「きょうの料理ピギナズ」の高木ハツ江さん、などを演じる中で、作者や視聴者から教えられたことから始まりました。アンパンマンは自己犠牲ではなく、自分を生かして人とのつながりを作るという意味がある、



などです。その後、ピアノの佐田さんのお父さんの さだまさし さん作詞作曲の「いのちの理由」などをはさんで、後半は3才の息子を亡くした母親が立ち直っていく姿を描いた創作物語「魔法のカバン」を音楽に乗せて優しくお話いただきました。最後はピアノとバイオリンの「チャールダッシュ」の明るい演奏で幕を閉じました。ご来場の皆様の心に暖かいものを残した講演でした。



県民のつどいは、県民会議結成以前の昭和41年に開催された「あすを築く青少年のつどい栃木県大会」が始まりのようです。その後形を変えつつ毎年開催されますが、昭和56年には「明日に向かう青少年のための県民大会」となり、平成22年からは「心豊かな青少年を育む県民のつどいin〇〇〇」として各市町と共催で開催しています。

来年度のつどいは「心豊かな青少年を育む県民のつどいin真岡市」として、平成30年10月28日(日)真岡市市民会館を会場に開催します。